

2019年1月22日

海外のお客様にも大変ご好評をいただいている 「本絹古布のつるし飾り」を 1Fロビーにて期間限定で展示いたします。

京王プラザホテル札幌(札幌市北5条西7丁目2番地1 代表取締役社長 池田純久)では、2019年1月26日(土)から3月3日(日)まで1階ロビーにて、北海道では大変珍しい「つるし飾り」を展示いたします。

「つるし飾り」とは、江戸時代に稲取温泉(静岡県)で始まったとされる伝統工芸品の一種で、桃の節句を迎える時期に、布製の人形に糸を通して雛人形と共に飾る装飾品です。その歴史は古く、多くの人々が高価な雛人形を買うことができない時代に、女の子の健やかな成長を願い、家族や親戚、近所の人たちが一針一針布の切れ端を縫い上げて作った人形を持ち寄り、飾られたのが始まりといわれています。動物やお花、遊び道具や野菜など様々であり、一つ一つにはそれぞれの意味が込められています。長寿を表す亀をはじめ、五穀豊穡を願った雀、中には虫除けの効果があることから娘に悪い虫がつかない意味をもつとうがらしなどユーモラスなものもあります。全てに生まれてきた子の幸せを願う親の気持ちが込められています。

2013年1月より展示を始め今回で7回目の開催となり、ご宿泊のお客様はもちろんレストランをご利用のお客様にも大変ご好評をいただいております。また、観光庁によると2018年の訪日外国人旅行者数が前年比8.7%増の3119万人と7年連続で前年を上回りました。京王プラザホテル札幌でも年々海外からのお客様を多く受け入れており、日本の文化を知っていただく機会の一つとして「つるし飾り」を展示しております。

こちらのつるし飾りは、キルト作家の松尾光代さんとひまわりグループ(埼玉県)のメンバーが代々受け継がれてきた着物など貴重な本絹古布を使用し、一針一針手作りした大変貴重な作品です。1月26日(土)から3月3日(日)の期間中1Fロビーにて展示しており、どなたでもご覧いただけます。



本件に関するお問い合わせ:京王プラザホテル札幌 営業企画担当
小笠原・横山まで
札幌市中央区北5条西7丁目2番地1 TEL 011-271-9260

